

大草谷津田生きものの里 自然観察会

冬越しするムシたち

西野孝法（千葉市）

日 時：2021年12月19日（日）10時30分～12時 天気：晴れ

参加者：21名（大人11名、子ども10名）、指導員：3名 サポート：1名（岡田）

担当指導員：遠藤 萩 西野

気温は低いものの空は雲一つない快晴の中での観察会となりました。

私たちは、「陽が高くなり気温が上がれば様々な生き物が顔を出してくれるに違いない」と思いながら参加者に大草谷津田での注意事項を説明し観察会を開始しました。

子どもたちは、学校で「昆虫博士」「ムシ先生」と呼ばれているほどみなムシ好きで駐車場周辺で、オオカマキリおよびハラビロカマキリの卵鞘、ムネアカハラビロカマキリの死骸を見つけるとテンションはMAXに達しました。



駐車場を出て観察路を進むと、早速「これ何？」と褐色のバッタを持ってきました。この季節にバッタの成虫が活着しているのを不思議がっていましたが、「名前はツチイナゴ、背中白い筋が特徴で、成虫で越冬する」と伝ええると「成虫で冬を越すバッタがいるんですね！」と驚いていました。その後もオオカマキリおよびムネアカハラビロカマキリの卵鞘、キモグリバエの仲間などを次々と見つけ出しました。気温が高くなるとムラサキシジミが現れました。冬枯れのフィールドに鮮やかな紫色の翅が浮かび上がり、「うわー綺麗！」と歓声が上がり、時間を忘れて鑑賞しました。また、萩 指導員が準備したカブトムシ、クワガタムシの幼虫にも飼育方法の情報交換など大いに盛り上がりました。

最後に陽当りの良い広場でムシ探しを行いました。ここでは、ツチイナゴ、ヒシバッタ、ナナホシテントウ、オンブバッタ、コバネイナゴなどが見られました。

ムシ以外にもビナンカヅラの実の鮮やかな赤、カラスウリの匂いと種の不思議な形が参加者の興味を引きました。カラスウリの種の形が、縁起が良いということで昔の人たちが財布に入れていたことも伝えました。

「生き物が豊かなところから仕事の関係で千葉に引っ越してきた、子どもに生き物に触れさせたいと思っていた、とても良かった」「季節を問わずに大草谷津田に来たい」等の感想をいただき、「積極的に外に出て生き物たちとの出会いを愉しんで欲しい」と伝え観察会を終えました。



地図をみて採集作戦思案中



上着を脱いでムシ探しの夢中



冬の日陽射しの中でムシ探し